

市民文教常任委員会会議記録（概要）

令和4年6月30日（木）

開 会（午前8時40分）

【議 事】

○特定事件「学校教育について」

・G I G Aスクール構想について

【概要説明】

中田学校教育  
部次長

本日は所沢市立北小学校にて現地調査をされるとのことですが、関根校長から低中高の3クラスを見学していただきたいという申出がありましたので、2年1組と3年2組、5年2組の授業を見ていただきたいと思えます。授業時間は45分間となっております、タブレット端末を使用する場面がそれぞれ違いますので、まずは3年2組の算数の授業の前半に、授業支援ソフトであるスクールタクトを使用した、あまりのある割り算の授業を御覧いただきます。その後、5年2組の国語の授業でグーグルジャムボードを使用した俳句の授業を御覧いただき、最後に2年1組の図工の授業では3年生と同様に、スクールタクトを使用して作品の写真や感想等を提出するという授業を御覧いただく予定となっております。

矢作委員長

それでは、G I G Aスクール構想に基づく所沢市立北小学校での現状を把握するため、委員会を休憩し、現地調査を行うこととしてよろしいか。

（委員了承）

休 憩 (午前8時50分)

(※休憩中に所沢市立北小学校に移動。)

再 開 (午前9時10分)

(※2年1組、3年2組、5年2組の授業参観を行う。)

**【質 疑】**

浅野委員

ディスプレイは各クラスに設置されているのか。

中村教育センター長

各クラスがございます。また、家庭科室や理科室のような特別教室にも用意しています。

浅野委員

タブレット端末等と同時に購入したのか。

中村教育センター長

そのとおりです。また、ディスプレイの下に白い箱がございまして、それがパソコンとテレビを無線でつなぐことができる無線画面転送装置です。これも同時に導入しています。

浅野委員

授業を見学したが、児童はタブレット端末を上手にを使ってローマ字入力をしていたが、タブレットを使用するのは教科書に付随しているのか。それとは別に各学校でどの部分で使用するかを決めているのか。

中村教育センター

入力に関しましては、ローマ字の学習をするのが小学校3年生からです

ター長                    ので、それまではローマ字入力は難しいと考えております。ただし、市で用意しておりますクロームブック内のブックマークにキーボード練習ができるサイトが登録されていますので、そういったことが好きな児童は家庭学習で取り組んでいたり、空き時間に勉強したりしています。コンピュータを使う場面については担任の先生が工夫して、ここで使ったら効果的ではないか、この部分は黒板と鉛筆のほうが有効ではないかを見極めて使っています。

浅野委員                    この学年ではコンピュータをここまで使いこなすというような方針はあるのか。

中村教育セン  
ター長                    市としては、先生方に教職員用リーフレットをG I G Aスクール構想が始まった時に配付しています。その中で各学年でこの辺まで使ってくださいという指針となるようなものを表にしています。学校ではこれをベースにどの授業でどの程度使うかを考えています。

川辺委員                    I C T支援員を現場で見させてもらったが、2人一組が基本なのか。どのような配置になっているのか。

中村教育セン  
ター長                    本来であれば1人配置となりますが、本日は管理者が1人いましたので2人体制でした。管理者はローテーションで月に2回程度、各学校に来て

います。

川辺委員

支援員の配置はどのように決めているのか。

飯島教頭

どの時間に支援員が必要なのかについては、担任から要望を出してもらっています。

植竹委員

支援員は委託業者のスタッフだと思うが、全部で何人いるのか。

中村教育セン

ター長

8人です。

ター長

植竹委員

今日は8人のうち2人が来ているということか。

中村教育セン

支援員は1人です。もう1人は管理者ですので、8人には含まれず、全体のマネジメントを行っています。

ター長

植竹委員

8人ということは、常に学校に支援員がいるということではないということか。

中村教育セン

週に2回程度来ています。

ター長

植竹委員

支援員は低学年に配置されることが多いのか。

中村教育セン

学習内容によりますが、タイピングのような授業では支援が必要になる

ター長

ことが多いです。また、支援の手を差し伸べたい先生がいらっしゃるので、  
学校ごとのニーズに応じて管理者がマネジメントを行っております。

矢作委員長

この際、委員として質疑したいので、副委員長と交代します。

天野副委員長

それでは、委員長の職務を行います。

矢作委員

支援員は昨年度のほうが多かったのではないかと思うが、昨年度は何人  
いて今年度は何人になったのか。

中村教育セン

昨年度が12人で今年度は8人です。

ター担当参事

矢作委員

12人から8人に減ったということで、十分対応できているのか。

中村教育セン

多いに越したことはないというのは間違いないのですが、貴重な予算な

ター長                    ので、予算編成時に各学校の I C Tに関する状況を調査したうえで8人と  
しました。近隣他市町村では所沢市が最も多いかと思えます。

天野副委員長            それでは委員長と交代します。

粕谷委員                タブレットを使った学習と従来どおりの紙を使った学習を比較したと  
きに、学習の進捗度はどのような変化があるのか。例えば、タブレットの  
操作が分からなければ、そこから先に進めなくなってしまうということが  
考えられる。支援員がいても操作が分からないままの児童もいる可能性が  
あると思うので、そういった場合に差ができてしまうのではないか。

中村教育セン  
ター長                    紙と鉛筆を使用した学習と I C T機器を使用した学習ということにつ  
いては、教育委員会としてはきちんと使い分けをしなければいけないと思  
っています。機器を使うことが目的ではなく、手段であることはリーフレ  
ットで各学校に周知しています。これは国も同様の方針です。特に漢字や  
計算等、しっかり習熟させたいものは紙と鉛筆でやらないと身につかない  
のではないかということで、教育センターでも I C Tの活用について研究  
を進めております。I C T教育の第一人者の赤堀侃司氏もおっしゃってい  
るのですが、ジャムボードのようないろいろなアイデアを結集するような  
方法では I C Tは有効ですが、習熟となると紙と鉛筆を使うことが重要に  
なってくると思っています。

粕谷委員

操作に不慣れな児童がタブレットを使って学習するのと、紙と鉛筆を使うことによる差というものはあるか。

関根校長

現場でもリテラシーの差はあります。そこをできるだけ埋めるような学習活動等を編成していく必要があります。一方で、本日御覧いただいた2年生の授業では感想を共有するということは通常では時間を必要としますが、ICTを活用すれば一度に共有できますし、他の児童からの評価を見て喜びを得られるということもあります。そういったよい面をどのように入れ混ぜていくかということになります。リテラシーの差があり、時間がかかってしまう児童もいるかもしれませんが、個別のサポートをしながらよさを共有していくことが現状だと思います。

中田学校教育  
部次長

習熟度については、昨年度タブレットが配られた時に比べれば格段に進歩していると思います。進歩については支援員も大切ですが、教員同士でも知識を共有しております。そして、驚くべきは子供たちの吸収力です。ICT機器の使用が得意な子供が、不慣れな友達に教えることもあります。また、効果的な使用については、ICTにとらわれすぎてしまうと授業の中身がおろそかになってしまうので、バランスを考えていく必要があると考えています。例えば、本日の図工の授業ではたくさんの作品をお互いに見られるというよさはありつつ、写真では一面しか見られないので、

作品全体のよさを見られないという点があるということを理解していないといけないと思います。便利ありきではなく、疑問も持ちながらであれば効果的な使い方を学べると思っています。

浅野委員

授業の中で感想をタブレットから送信するという作業をしていたが、他の授業ではタブレットに打ち込むだけで内容を送信していないようだった。先生は児童がどんなことを打ち込んでいて、授業についてきているのか把握しているのか。

中村教育センター長

2年生の図工の授業ではスクールタクトという授業支援ソフトを使用しています。それについては児童の入力内容を瞬時に把握することは可能です。しかし、5年生の国語の授業で俳句を作成していましたが、先生が課題として出したものを児童が個人で作業した内容は見られないので、先生は授業中に教室を回って入力内容を確認していました。先生はそれぞれのソフトの得意分野を使い分けながら授業で使用しています。

浅野委員

3年生は割り算の授業だったが、どのように活用しているのか。

中村教育センター長

デジタル教科書を使用していました。教科書と同じものですが、ディスプレイに映すことで、拡大したり線を引けたりできるので活用しています。子供たちにとっても、視覚的に入ってくると集中できるので発見する



ことも多いようです。

浅野委員

ドリルなどが宿題になったりするのかな。

中村教育セン

スクールタクトを使って課題を配信していました。

ター長

浅野委員

テスト前に児童の進捗状況を確認できるということか。

中村教育セン

そのとおりです。

ター長

入沢委員

図工の授業の感想を送信していたが、操作ができない子供も何人かいたように見えた。できた子供とできなかった子供に差があると思うが、どのように把握しているのか。

中村教育セン

スクールタクトを使用してる場合は、子供たちの様子は見られます。感想を提出できた場合は、先生がそれに対してコメントをすることができま  
すが、提出できない場合は完成していないので、できたら提出することになっ  
ています。できていない子供の様子も把握することは可能です。また、  
図工の授業は2年生なので、最初から感想を入力することは非常に難しい

ター長

ので、先生が事前に例文を提示するという工夫が見られました。

中田学校教育  
部次長

できていない場合に先生に助けを求められる子供もいれば、そうでない子供もいます。そういった差を取りこぼさないように見てあげることは大切だと思います。

植竹委員

3年生の授業で別教室から参加している子供がいたが、その場合は何か原因があるということなのか。

関根校長

教室に入りにくい理由は様々にあります。例えば、相談室でオンライン授業に参加することはできます。

植竹委員

その場合は出席になるのか。

関根校長

そのとおりです。

植竹委員

自宅で授業に参加する児童はいるか。

関根校長

コロナの関係でお休みしている場合には、家でも授業が見られるようになっています。

植竹委員

自宅でタブレットを使用して授業を見ている場合は出席になるのか。

関根校長

授業については双方向という条件があるので、その条件を満たしている場合は出席になります。

植竹委員

タブレットを使用して、自宅から双方向の授業への参加は可能か。

関根校長

授業で課題を送信して、その課題が提出された場合は出席になります。

植竹委員

他のクラスでも教室以外からの参加はあるか。

関根校長

コロナの関係でそういった状況になることもあるので、どのクラスでもそういったことはあります。

矢作委員長

この際、委員として質疑したいので、副委員長と交代します。

天野副委員長

それでは、委員長の職務を行います。

矢作委員

双方向で授業を受けられれば出席扱いになるということで、コロナの時  
にはそういった対応もしていたとのことだが、その後も学校に来られない  
場合に対応しているのか。

関根校長

現時点では対応が必要な児童はおりませんが、不登校傾向にある児童も  
双方向でのやり取りができれば出席扱いにできます。

矢作委員

市内の他の学校でも同じような取組はされているのか。

中村教育セン  
ター長

コロナが流行してしまっていて、感染不安が多かった時期には多くの学  
校でタブレットを使用して授業に参加するという取組がされていました。

矢作委員

今日見学した授業の先生は情報主任ということでタブレット等の扱い  
に慣れているようだったが、不慣れな先生の場合は支援員がサポートして  
いるとのことであった。とはいえ自分が不慣れだから授業で使わないわけ  
にはいかないのか、研修もいろいろと実施しているとのことだが、先生の  
I C T機器の活用に対する習熟度は上がっているのか。

関根校長

各クラスの授業内容は確認していますが、タブレット等を活用すること  
が得意ではない場合でも、大型のモニターを使用して画像を映したり、ノ  
ートを映したりする I C T機器の活用については進んできたと思います。  
タブレットも活用していますので、先生の間で差がないということはある  
ませんが、その差は確実に埋まっている実感はあります。

矢作委員

活用方法で悩んだ場合は教育センターやICT支援員がサポートする  
ということになるのか。

関根校長

そのとおりです。また、先生同士で教え合うこともできますので、得意  
な先生に助けを求めることもあります。

天野副委員長

それでは委員長と交代します。

矢作委員長

本日は執行部の皆さんに協力していただき、現地調査を行うことが出来  
ました。ありがとうございました。

#### **【質疑終結】**

矢作委員長

ここで、お諮りいたします。本日審査いたしました特定事件「学校教育  
について」のうち、GIGAスクール構想については、引き続き審査する  
ことに御異議ありませんか。

(委員了承)

矢作委員長

御異議なしと認め、そのように決しました。

散 会 (午前10時56分)

